

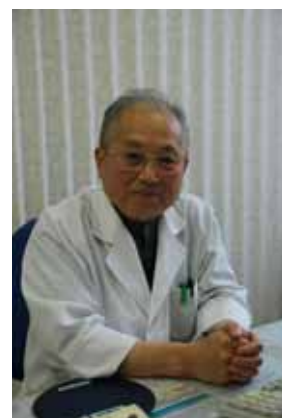
水を飲むときは、井戸を掘った人の恩を忘れない

対談者：熊谷 信夫

老人保健施設 須坂やすらぎの園

聞き手：鈴木 信夫

みのはな同窓会広報担当常任理事



鈴木：長野県に在住する卒業生の先生方へのインタビューの一環として、熊谷信夫先生にお話を伺います。先生は、信州みのはな会の会長もなさるなど、色々な分野でご活躍と聞いております。先ず、卒業後のご経歴をお話し下さい。

熊谷：私は昭和28年に卒業し、故河合直次教授の第一外科に入局しました。昭和33年に河合先生の推薦で、長野県立須坂病院に外科医として赴任しました。当時、故森川不二男先生が院長で、千葉大の関連病院として声がかかったのです。信州の生まれだったので白羽の矢が立ったということでしょう。嫌になったら1年で帰ってきて良いよと言われたのですが、居心地が良かったのでしょうか、平成6年に退職するまで36年間勤務して、最後は院長を勤めさせて頂きました。昭和40年代は長野県も医者が少ない時期で、特に中堅の医師が足りないとのことで、奨学金などの優遇策もありました。東京オリンピックの翌年、昭和40年には長野県から百万円の奨学金を頂き、ヨーロッパへ4ヶ月間行きました。ドイツを中心に、1ヶ月位は大学病院に通いましたが、各地の病院巡りや観光などをしました。その後、情勢が変わってきたのでしょうか、大学は学園紛争の時期に入り、医師の待遇も低下する時代となってきました。特に、最近は医師が足りなくなっています。現在の長野県知事は、医師集めに真剣に取り組んでいるので、ある程度の成果を見ているようです。私も出来るだけ協力したいと思っています。

鈴木：それでは、現在お勤めになっている須坂やすらぎの園をご紹介します。

熊谷：社会福祉法人・睦会（むつみ会）が運営する高齢者総合福祉施設です。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、デイサービス、デイケアなどと幼稚園を含めた施設を有し、多くの職員がおります。入所、日帰りを合わせますと、1日300人位の利用者がここに集まります。職員も250人を越えています。私の担当している介護老人保健施設は、平均年齢が85歳位です。入所者に比べれば、私は若い方に属しております。長野地域にあるこのような施設の中では、ここが一番大きいと言われております。この地域では2000人位の収容人数です。同様の施設が須坂市には3ヶ所あります。お年寄りの施設として十分とは言いきれませんが、かなりの面倒は見る事が出来ると思います。

鈴木：パンフレットの中に、職員の構成職種別実体が示されています。医師は複数勤務しているようですが、こうした施設へ就職を希望される先生方へ、望まれる専門科目とか経験などについて何か条件がありましたら。

熊谷：特に専門は問いません。親切にお年寄りに対応して頂ける先生ならば。

鈴木：今までの経歴紹介の中に、「居心地がよかった」との話がありました。具体的にはどういったことがありますか。

熊谷：須坂病院の2代院長が私の外科の先輩である故森川不二男先生で、とても良い先生でした。余りうるさいことはおっしゃらず、好きなようにして良い、と。お金の心配はせずに一生懸命に働いてくれ、という意味では居心地が良かったですね。それから、長野県

も一時期は医師の給料が安いので何とか面倒を見ようということから、留学制度を作るなどの施策を行いました。今はこういうご時世なので、状況は悪くなっているようですね。いくらか回復の兆しも見えてきたようですが。

鈴木：ヨーロッパ視察は勉強になりましたか。

熊谷：勉強になりました。当時、私が習ったのはドイツ医学だったので、主にドイツに滞在し、留学生と一緒に、手術や臨床講義、教授の回診にもついて回りました。言葉はあまり分からなかったのですが、役に立ったと思います。外科の手術、手術後の処置など、新しいことをどんどん取り入れている。一番役に立ったと思われるのは、静脈注射。点滴をするときにはビニールのカニューレを血管に入れますが、当時の日本にはなかった。注射針を静脈に留置していたのです。これは良い、導入しよう、と思って帰国した時には、既に日本に入っていましたね。しかし、外国医療視察には、新しい発見があるので良いと思います。

鈴木：では、少し話を変えまして、先生は中国との交流にもご活躍されていると聞いています。その点について、私たちに参考となることがありましたらご紹介下さい。

熊谷：中国へは昭和 59（1984）年に初めて行きました。以前から長野県医師会の中国視察旅行があって、故森川先生が2年前に参加していました。森川先生の話をして興味を持ちました。中国は真っ赤な国であることに畏怖の念を抱いて出かけたのですが、知り合った人達は非常に人が良く親切でした。これは中国の人たちとは付き合えるなど感じました。当時、中国から長野県医師会を通じて研修医の何人かは県内の他病院へ来ていましたので、須坂病院での研修医の受け入れの可能性を考えていたところ、河北省からも申し出があり、県の許可を得て病院の予算内で、昭和 61（1986）年から河北医科大学付属第二医院から1人の研修医を、最初は3カ月間受け入れました。初めての自由国家への訪問であり、新しい医学にも触れて喜んでくれました。一方、須坂病院の職員も職員旅行として、何回か訪中して友好を深めてきました。平成 2（1990）年には長野県と河北省との友好提携5周年を記念して、病院単独事業から農業や工業と同様に県事業に格上げされました。それ以来、須坂病院では、研修医が研修・友好交流を毎年継続しています。そんなことが縁となり中国へ招待され、河北医科大学二院医の名誉顧問に聘請されました。初期に、長野へ来た研修医は皆教授や指導的医師となり、今でも付き合っています。中国では「水を飲むときは、井戸を掘った人の恩を忘れない」と言われておりますが、お互いに古い恩義を忘れないことが、交流には大切かと思います。

鈴木：インタビューを終える前に、若い先生へのコメント、やすらぎの園を見学したいと思う医学生に向けてのアピールをお願いします。

熊谷：若い人たちにも、是非、長野県へ来て頂きたい。かつて、信州あのはな会員数は100人を越えており、長野県の医療の多くを背負っていましたが、今は70人以下となり、寂しくなっています。千葉大学医学部は千葉県内限定のものではなく全国区だと思いますので、長野県にも眼を向けられんことを期待しています。志賀高原や菅平でのスキー、春から秋には高原のハイキングやアウトドアにはこと欠きません。須坂市周辺に沢山ある有名無名の温泉は、心身をリラックスさせてくれます。新幹線で東京から長野へ1時間40分で来られるし、須坂は長野から電車で15分です。また、近在で産する新鮮な野菜やお米も美味しく、ブドウ（巨峰）やリンゴなど秋の味覚は長野県ならではのものです。若い人にぜひ来て頂きたいし、長野県には、当園と同様の施設が数多くありますので、お年寄の先生やご家族をお持ちの先生方にも、生活と仕事との両立を目指して長野県へ来て頂ければと切望しています。

鈴木：有意義なインタビューを有難う御座いました。

<p>◆協力病院</p> <p>長野県立須坂病院 (内科・精神科・神経内科・小児科・外科 整形外科・泌尿器科・産婦人科・眼科 耳鼻咽喉科・皮膚科・麻酔科・放射線科) <small>臨外科</small></p> <p>須坂市大字須坂1332 ☎026-245-1650</p>	<p>◆協力歯科医療機関</p> <p>須高歯科医師会 長野県須坂市南横町1547-1 ☎026-248-2600(会長宅)</p> <p>◆利用料の減免 当施設では、ご利用料の 減免制度を実施しておりますので 詳しい事は、 相談員にご相談ください</p>
---	---

協力医療機関